

第2次選考試験・「模擬授業」実施要領

神戸市教育委員会事務局

教 職 員 人 事 課

1. 模擬授業対象者 第2次選考試験受験者の全員に対して、個人面接日に模擬授業を実施する。

2. 学習指導略案の作成と提出

(1) 様式 裏面の「様式例」に基づいて作成する。(★基本情報を含む)

(2) 選択教科等

試験区分	選択する教科等	指導略案
小学校教諭 (英語コース)	小学校高学年（5・6年生）を対象とした授業とし、 教科は「国語」「算数」から選択して行う。	1 単位時間分 <u>A4版1枚</u> <u>(必ず片面のみに</u> <u>まとめる。)</u> ※小学校選択の場合は、 45分設定 ※中・高校選択の場合は、 50分設定
中学校・ 高等学校教諭	「出願教科」	
特別支援学校教諭	特別支援学校における集団で行う授業を設定する。 志願している校種・教科に応じて、「教科等を合わせた指導」又は 「教科別、領域別の指導」を行う。	
養護教諭	小学生又は中学生を対象とした授業とし、学年設定は自由。 教育課程上の位置付けも考えて、単元や内容等を選択して行う。	
栄養教諭	小学生を対象とした授業とし、学年設定は自由。 教育課程上の位置付けも考えて、単元や内容等を選択して行う。	

(3) 略案提出 個人面接試験会場の受付にて4部提出

※実施要項の情報から提出時期が変更されているためご注意ください。

3. 模擬授業の実施

(1) 授業場面 受験者が作成した指導略案の中から、
当日面接官が指定する場面状況に応じて授業を行うものとする。(2) 実際の時間 5分程度(説明1分・準備時間1分＋実演・質問3分程度)

(3) 留意事項

- ① 面接室へ入室後、挨拶の後に実施する。
- ② 模擬授業中は、可能な限り黒板（またはホワイトボード）を使用すること。
・チョークは白・赤・黄、マーカーは黒・赤・青を準備予定
- ③ 授業開始の挨拶やプリント配付など、授業内容と直接関係ない行為はしない。
- ④ 教材教具の持ち込みは一切できない。
・教材教具が必要な場面では、それらが「あるもの」として授業を行う。
- ⑤ 教室に子供がいるものとして、発問や説明、指示、板書等を進める。

◆学習指導略案の様式例

- (1)受験番号、選考区分、教科、名前、面接日時、学年、設定した単元の教科・領域等を**必ず記入**する。
- (2)下記の指導略案は**様式例**であり、各項目等の設定は自由。用紙の両端は**1.5cmの余白**をとる。
- (3)手書きでもパソコンでも可。モノクロ写真やイラストなど資料を縮小して貼り付けてもよい。

★基本情報				
受験番号		選考区分		教科
小、小(英)、中・高、特支(小)、特支(中高)、 養護、栄養のいずれかを記入。		面接日時	月	時 分
第 学年 〇〇科 学				
1. 単元(題材) 名 2. 単元(題材) 目標 3. 本時の学習 (/ 時間) ① 目標 ② 過程(展開)				
(全 時間) 教科でない場合は、別の表記 に換えること。 ※様式例に沿って、A4版1枚(必ず片面)にまとめる。				
子供の活動と内容		教師の支援と留意点		
1.				
2.		注) 実際に授業を行う場面は、当日面接官が指定する。(3分)		
3.		※ 基本的には、子供の「活動」を教師はどう「支援」するのか、 また、実際に学ぶ「内容」に教師はどのように「留意」するのか、 という観点で作成する。但し、別項目を設定しても可。		
4.		ここでは「4分節」としているが、あくまでも例示であるため、変更してもよい。		
【評価規準】 本時の目標が、達成されたといえる 子供の学びの姿(学習状況)を記入する。 注 分節ごとの評価ではなく、1単位時間 の評価規準として考える。評価の観点や 方法等の記載については自由。		【評価規準】		